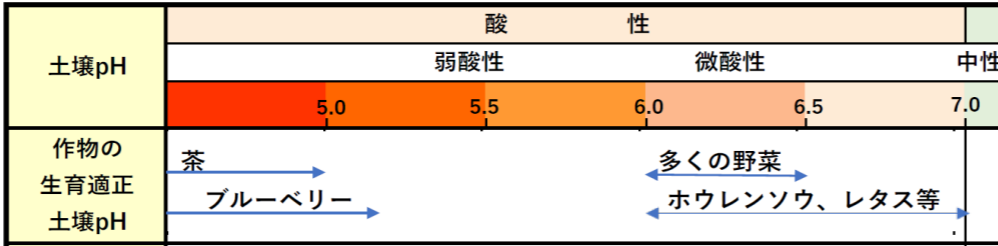
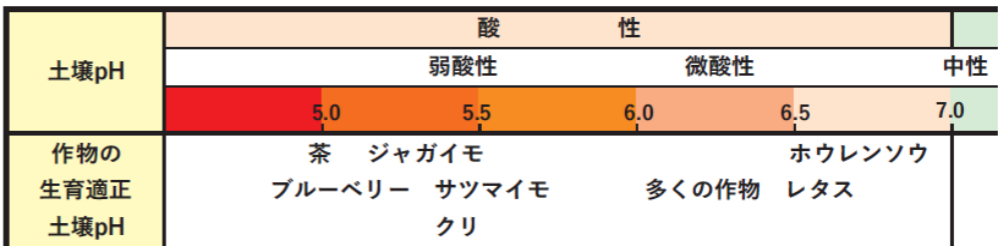




土壤医検定試験新版3級参考書「土づくりと作物生産」第2刷の正誤表

No	ページ	該当か所	修正内容(正)	原文等(誤)
1	28	表3-2 ⑤モリブデン Mo	植物体内の硝酸還元酵素の構成元素	植物体内の酸化還元酵素の構成元素
2	30	右段 下から6~10行目	陽イオン交換容量(CEC)に対して、交換性塩基(*補足6)の占めている割合(%)を塩基飽和度という。交換性塩基として、土壤診断では一般に、カリウム、マグネシウム、カルシウムの値が用いられている。	陽イオン交換容量(CEC)に対して、交換性塩基(*補足6)(一般にはカリウム、マグネシウムとカルシウム)の占めている割合(%)を塩基飽和度という。
3	30	補足6 下から1行目	容易に他の陽イオンに置き換わる陽イオンのうちカリウム、マグネシウム、カルシウムとナトリウムを交換性塩基と呼ぶ。	容易に他の陽イオンに置き換わる陽イオンのうち水素イオン以外のものを交換性塩基と呼ぶ。
4	35	図3-5 作物の生育適正土壌pH	<p>図3-5の下段に記載されている文章に沿って、茶、ブルーベリー、多くの作物、ホウレンソウ、レタス等について、適した酸性域を表示した</p> 	<p>茶、ジャガイモ、ブルーベリー、サツマイモ、クリ、多くの作物、ホウレンソウ、レタスについて適した酸性域を表示しているか所の修正</p> 
5	45	左段 10~11行目	その吸収には他の養分のようにエネルギーをあまり必要とせず水の吸収とともに	その吸収には他の養分のようにエネルギーをあまり必要とせず <u>に</u> 水の吸収とともに
6	47	図3-11 左イラストの下部解説コメント	土壤コロイドのマイナスの電荷の40%に交換性塩基が吸着している。	(土壤コロイドのマイナスの電荷に陽イオン(水素イオン除く)が40%保持されている。)
7	47	図3-11 中央イラストの下部解説コメント	土壤コロイドのマイナスの電荷の70%に交換性塩基が吸着している。	(土壤コロイドのマイナスの電荷に陽イオン(水素イオン除く)が70%保持されている)
8	47	図3-11 右イラストの下部解説コメント	土壤コロイドのマイナスの電荷すべて(100%)に交換性塩基が吸着しており、吸着していないものが土壤溶液中に50%存在している。	(土壤コロイドのマイナスの電荷に陽イオンが100%保持されており、保持されていない陽イオンが50%ある。)
9	47	図3-11 塩基飽和度40%、70%、150%のイメージ タイトル名	塩基飽和度40%、70%、150%のイメージ	塩基飽和度の相違と土壤コロイドの陽イオンの保持状況
10	47	右段 2行目	交換性塩基(カルシウム、マグネシウムとカリウム)	交換性陽イオン(カルシウム、マグネシウムとカリウム)
11	47	補足20 下から2~6行目	交換性陽イオン…土壌中の交換性陽イオンには、カルシウム、マグネシウムやカリウム以外にアンモニア態窒素がある。アンモニア態窒素は土壌中で硝酸態窒素に変化しやすいことなどから塩基飽和度や塩基バランスの計算項目には入れていない。ただし、カルシウムなどの交換性陽イオンと拮抗関係がある。トマトの尻腐れ症は、カルシウム欠乏によるものであるが、交換性陽イオンの中でアンモニア態窒素が最も強くカルシウムの吸収を抑制していることが知られている。	交換性陽イオン(カルシウム、マグネシウムとカリウム)…土壌中の交換性陽イオンとしては、カルシウム、マグネシウムやカリウム以外にアンモニア態窒素がある。アンモニア態窒素は土壌中で硝酸態窒素に変化しやすいことなどから塩基飽和度や塩基バランスの計算項目には入れていないが、拮抗作用はある。トマトの尻腐れ症は、カルシウム欠乏によるものであるが、塩基類の中でアンモニア態窒素が最も強くカルシウムの吸収を抑制していることが知られている。

No	ページ	該当か所	修正内容(正)	原文等(誤)																																																																								
12	49	図3-12 コマツナの曲線	<p>コマツナ(コムギを削除した)</p>	<p>コムギ コマツナ</p>																																																																								
13	66	右段 10行目	pF0	pF0.0																																																																								
14	66	図4-7	<p>pF値の0の配置位置、水分恒数の最大容水量、圃場容水量、生長阻害水分点、初期しおれ点の配置位置の微修正を行った</p> <table border="1"> <tr> <td>水分量</td> <td colspan="5">多い ← → 少ない</td> </tr> <tr> <td>pF値</td> <td>0</td> <td>1.5~1.8</td> <td>2.7~3.0</td> <td>3.8</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>土壌水分</td> <td>重力流去水(過剰水)</td> <td colspan="2">有効水</td> <td colspan="2">無効水(非有効水)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>易効性有効水(生長有効水)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水分恒数</td> <td>最大容水量</td> <td>圃場容水量</td> <td>生長阻害水分点</td> <td>初期しおれ点</td> <td>永久しおれ点</td> </tr> <tr> <td>作物生育</td> <td>根が湿害</td> <td>正常生育</td> <td colspan="3">枯れ始める</td> </tr> </table>	水分量	多い ← → 少ない					pF値	0	1.5~1.8	2.7~3.0	3.8	4.2	土壌水分	重力流去水(過剰水)	有効水		無効水(非有効水)				易効性有効水(生長有効水)				水分恒数	最大容水量	圃場容水量	生長阻害水分点	初期しおれ点	永久しおれ点	作物生育	根が湿害	正常生育	枯れ始める			<p>pF値の0の配置位置、水分恒数の最大容水量、圃場容水量、生長阻害水分点、初期しおれ点の配置位置にズレがあるところの微修正</p> <table border="1"> <tr> <td>水分量</td> <td colspan="5">多い ← → 少ない</td> </tr> <tr> <td>pF値</td> <td>0</td> <td>1.5~1.8</td> <td>2.7~3.0</td> <td>3.8</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>土壌水分</td> <td>重力流去水(過剰水)</td> <td colspan="2">有効水</td> <td colspan="2">無効水(非有効水)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>易効性有効水(生長有効水)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水分恒数</td> <td>最大容水量</td> <td>圃場容水量</td> <td>生長阻害水分点</td> <td>初期しおれ点</td> <td>永久しおれ点</td> </tr> <tr> <td>作物生育</td> <td>根が湿害</td> <td>正常生育</td> <td colspan="3">枯れ始める</td> </tr> </table>	水分量	多い ← → 少ない					pF値	0	1.5~1.8	2.7~3.0	3.8	4.2	土壌水分	重力流去水(過剰水)	有効水		無効水(非有効水)				易効性有効水(生長有効水)				水分恒数	最大容水量	圃場容水量	生長阻害水分点	初期しおれ点	永久しおれ点	作物生育	根が湿害	正常生育	枯れ始める		
水分量	多い ← → 少ない																																																																											
pF値	0	1.5~1.8	2.7~3.0	3.8	4.2																																																																							
土壌水分	重力流去水(過剰水)	有効水		無効水(非有効水)																																																																								
		易効性有効水(生長有効水)																																																																										
水分恒数	最大容水量	圃場容水量	生長阻害水分点	初期しおれ点	永久しおれ点																																																																							
作物生育	根が湿害	正常生育	枯れ始める																																																																									
水分量	多い ← → 少ない																																																																											
pF値	0	1.5~1.8	2.7~3.0	3.8	4.2																																																																							
土壌水分	重力流去水(過剰水)	有効水		無効水(非有効水)																																																																								
		易効性有効水(生長有効水)																																																																										
水分恒数	最大容水量	圃場容水量	生長阻害水分点	初期しおれ点	永久しおれ点																																																																							
作物生育	根が湿害	正常生育	枯れ始める																																																																									
15	74~75	74ページ 右段 下から1行目~ 75ページ 右段 3行目	<p>生体重で比較すると、畑は水分が少ないので、微小藻類や原生動物が少なく、糸状菌、細菌や放線菌が大部分を占め、糸状菌の割合が最も大きい。</p>	<p>畑は水分が少ないので、微小藻類や原生生物が少なく、糸状菌、細菌や放線菌が大部分を占め、糸状菌が最も多い。</p>																																																																								
16	74	表5-1 原生生物の種類	<p>原生動物と微小藻類を原生生物としてくる</p> <table border="1"> <tr> <td>原生動物</td> <td>真核生物に属し、単細胞で運動性を有する生物で、細菌類や小さい原生生物を捕食して栄養としている。アメーバ、繊毛虫(ゾウリムシの仲間)、鞭毛虫などがある。原虫とも呼ばれる。</td> </tr> <tr> <td>微小藻類</td> <td>真核生物に属する単細胞ないし単純な構造を持つ多細胞の植物である。主に土壌の表面近くに生息しており、水田に多い。</td> </tr> </table>	原生動物	真核生物に属し、単細胞で運動性を有する生物で、細菌類や小さい原生生物を捕食して栄養としている。アメーバ、繊毛虫(ゾウリムシの仲間)、鞭毛虫などがある。原虫とも呼ばれる。	微小藻類	真核生物に属する単細胞ないし単純な構造を持つ多細胞の植物である。主に土壌の表面近くに生息しており、水田に多い。	<table border="1"> <tr> <td>原生生物</td> <td>真核生物に属し、単細胞で運動性を有する生物で、細菌類や小さい原生生物を捕食して栄養としている。アメーバ、繊毛虫(ゾウリムシの仲間)、鞭毛虫などがある。原虫とも呼ばれる。</td> </tr> <tr> <td>藻類</td> <td>真核生物に属する単細胞ないし単純な構造を持つ多細胞の植物である。主に土壌の表面近くに生息しており、水田に多い。</td> </tr> </table>	原生生物	真核生物に属し、単細胞で運動性を有する生物で、細菌類や小さい原生生物を捕食して栄養としている。アメーバ、繊毛虫(ゾウリムシの仲間)、鞭毛虫などがある。原虫とも呼ばれる。	藻類	真核生物に属する単細胞ないし単純な構造を持つ多細胞の植物である。主に土壌の表面近くに生息しており、水田に多い。																																																																
原生動物	真核生物に属し、単細胞で運動性を有する生物で、細菌類や小さい原生生物を捕食して栄養としている。アメーバ、繊毛虫(ゾウリムシの仲間)、鞭毛虫などがある。原虫とも呼ばれる。																																																																											
微小藻類	真核生物に属する単細胞ないし単純な構造を持つ多細胞の植物である。主に土壌の表面近くに生息しており、水田に多い。																																																																											
原生生物	真核生物に属し、単細胞で運動性を有する生物で、細菌類や小さい原生生物を捕食して栄養としている。アメーバ、繊毛虫(ゾウリムシの仲間)、鞭毛虫などがある。原虫とも呼ばれる。																																																																											
藻類	真核生物に属する単細胞ないし単純な構造を持つ多細胞の植物である。主に土壌の表面近くに生息しており、水田に多い。																																																																											
17	74	補足2 下から5行目	<p>原生生物などがある。大きさは細菌で0.5~2μm、菌類の菌糸の幅が数μm、原生動物は5~100μm程度である。</p>	<p>原生生物、藻類などがある。大きさは細菌で0.5~2μm、菌類の菌糸の幅が数μm、原生動物や藻類は5~100μm程度である。</p>																																																																								
18	78	補足9 下から2~3行目	<p>原生生物には、原生動物、微小藻類などが含まれる。</p>	<p>一方、コンブなどの褐藻類、テングサなどの紅藻類は大型になる。原生生物には、藻類、卵菌類(ミズカビ類など)、変形菌、粘菌類が含まれる。</p>																																																																								

No	ページ	該当か所	修正内容(正)	原文等(誤)
19	126	図7-10 有機JASマーク 表示内容	<p>認証機関名 認証番号</p>  <p>認証機関名 認証番号</p>	<p>認定機関名</p>  <p>認定機関名</p>
20	126	左段 10行目	有機登録 <u>認証機関</u> から <u>認証</u> を受けたもののみが有機JAS マークを付け、	有機登録 <u>認定機関</u> から <u>認定</u> を受けたもののみが有機JAS マークを付け、
21	126	左段 下から6行目	有機JAS <u>認証</u> を取得することが販売	有機JAS <u>認定</u> を取得することが販売
22	141	右段 下から9行目	膨軟な作土が <u>30cm以上</u> あれば	膨軟な作土が <u>25cm</u> あれば